

東京地区会だより

東京地区会研修会・定期総会に参加して



国立がん研究センター中央病院

吉田 和広

令和元年10月26日(土)国立がん研究センター中央病院において平成30年度国臨協関信支部東京地区会研修会並びに定期総会が開催されました。当日は穏やかな好天に恵まれ、会場は多くの出席者で満員となりました。

第1部は国立がん研究センター中央病院 池田千秋先生より「カンボジアにおける臨床検査の質の向上事業における経験」と題してご講演をいただきました。カンボジアの医療の発展が遅れた理由やカンボジア国内の検査室の現状を知り、日本との環境の違いに驚きました。また、国際活動を行うことになった経緯を教えてください、人との繋がりやチャレンジしてみることが大切だと感じました。

第2部では国立がん研究センター中央病院 臨床検査科長 松下弘道先生より「がん細胞の特性とその診断・治療への応用」と題してご講演をいただきました。遺伝子パネル検査や免疫療法、リキッドバイオプシーを使用した検査についてご説明していただき、言葉としては知っていても実際にどのようなものか理解していなかったのが、大変勉強になりました。特にリキッドバイオプシーには、血中循環腫瘍細胞(CTC)、血中循環腫瘍DNA(ctDNA)、エクソームなどがあり、癌を含む様々な疾患のバイオ

マーカーとして注目されていることを知りました。リキッドバイオプシーは内視鏡や針を使って腫瘍組織を採取する従来の生検に代えて血液などの液体サンプルを使って診断や治療効果予測を行う技術であり、患者の負担が少なく、今後ますます普及していくことを期待したいです。また今後、分析前手順の標準化や分析方法の統一化が必要であるとのことでした。

第3部では国立病院機構関東信越グループ 臨床検査専門職 北沢敏男先生から「伝達事項ならびに会員の皆様にむけて」と題して講演をいただきました。関東信越グループの組織図や人事異動、研修事業に関する案内があり、国立病院機構で働く検査技師の年齢分布の差が大きいことに驚きました。自分が勤務する病院だけでなく、グループ全体の現状を知る良い機会となりました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご講演いただきました3人の先生方ならびに開催・運営にご尽力いただきました国臨協関信支部東京地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

